本学関係者による展覧会情報

■本学教員・元教員・本学卒業生

『まなざしの哲学 ―京都嵯峨芸術大学の40年』
会期:6月14日(火)〜19日(日)　会場:京都市美術館 別館(京都)

■入佐美南子/油画

『SAGAN2011』
会期:6月7日(火)〜12日(日)　会場:アートスペース東山(京都)

『二科会 京都支部展』
会期:6月23日(木)〜26日(日)　会場:京都市美術館 別館(京都)

『第96回二科展』
会期:8月31日(水)〜9月12日(月)　会場:国立新美術館(東京)

■イチハラヒロコ/油画

『プレイルーム。2011』
会期:7月26日(火)〜9月11日(日)　会場:京都国立近代美術館(京都)

『チャンネル』
会期:10月1日(土)〜11月23日(水・祝)　会場:兵庫県立美術館(兵庫)

■竹内三雄/彫刻

『Sculpture by the Sea aarhus-Denmark』
会期:6月2日(木)〜7月3日(日)　会場:オーフス市内の公園・遊歩道(デンマーク)

■日野田崇/陶芸

『個展「新しい筋肉」』
会期:6月4日(土)〜7月23日(土)　会場:imura art gallery kyoto(京都)
会期:8月6日(土)〜9月3日(土)　会場:imura art gallery tokyo(東京)

『New Millennium Japanese Ceramics:
Rejecting Labels & Embracing Clay』
会期:9月23日(金・祝)〜11月6日(日)　会場:Northern Clay Center(アメリカ)

■田上真也/陶芸

『以美為用』
会期:8月10日(水)〜16日(火)　会場:京都高島屋(京都)

『夏の酒器展』
会期:8月3日(水)〜16日(火)　会場:Toyoda(京都)

■内山政義/陶芸

『内山政義 作陶展』
会期:7月20日(水)〜26日(火)　会場:大阪高島屋(大阪)

附属博物館/附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」/連続公開講座「京の美意識」スケジュール/あらし山びこスケジュール

附属博物館

■『嵯峨大念仏狂言展ー面(めん)の世界ー』
日時:〜6/19(日)　10時〜17時開館　休館日:月曜

■『京都嵯峨芸術大学所蔵
制作展優秀作品展 40年のあゆみ 1』
日時:7/5(火)〜31(日)　10時〜17時開館　休館日:7/31を除く日曜

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

■『韓国・現代美術の地層
清州大学・忠北大学・西原大学・その芸術と教育』
日時:〜6/12(日)　10時〜18時開館　最終日17時迄　休館日:月曜

■『circulation 3』
日時:6/27(月)〜7/3(日)　12時〜18時開館　最終日16時迄　無休
※「メディアアートRoom2」でも同時開催

■『ちょっと変わったOB・OG展
日本を元気にする造作、創造、新境地。』
日時:7/18(月・祝)〜31(日)　10時〜17時開館　休館日:7/31を除く日曜

※展覧会予定は変更する場合があります

連続公開講座「京の美意識」スケジュール

2011年は学園創立40周年を迎えることから、講師陣は全て本学関係者で開催いたします(参加無料)。本学が40年にわたり培った「京の美意識」を工芸、文化、歴史等の各分野からお話しいただきます。また、ご希望の方には過去の講演録を販売しています(一冊千円)。

■第62回6月11日(土)「月の都、京都を探検する」
藤川桂介<脚本家・小説家・本学客員教授>

■第63回7月9日(土)「京の塗師屋(ぬしや)まだ四代目」
橋口俊之<塗師・本学卒業生>

■第64回9月24日(土)「祭りに輝く京の美意識」
山路興造<民俗芸能学会・藝能史研究会代表、元本学客員教授>

■第65回10月22日(土)「物作り、京陶人形を通して」
土田博之<株式会社 土田人形代表取締役社長・本学卒業生>

■第66回11月26日(土)
「古代山背の神奈備の山河に神々と秦氏と鴨氏のいる『眺め』」
深田進<本学名誉教授>

■第67回2012年1月21日(土)「京都とパリと ―異文化のはざまで思うこと―」
三好郁朗<本学学長>

■第68回3月24日(土)「京の空間美 〜花の見方に作法があるなら〜」
大森正夫<本学教授>

※いずれの回も14:20〜有響館G401教室にて。
お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898

あらし山びこスケジュール

本学附属図書館の児童書コーナー「あらし山びこ」では、近隣の小学生や児童を対象に、季節に合わせた絵本の読み語りイベントを開催しています。地域のみなさんと京都の文化を学び、ふれあう時を一緒に過ごしながら、子どもたちの読書の第一歩を応援しています。

日時:第3土曜日(11月を除く)　13:30〜　入場料:無料　参加自由
場所:京都嵯峨芸術大学 嵯原キャンパス「有響館」1階 附属図書館内

回	日程	プログラム	テーマ
3	6月18日(土)	30分	ぼうけん
4	7月16日(土)	30分	たべる
5	10月15日(土)	30分	しゅうかくさい
6	11月 5日(土)	80分	未定
7	12月17日(土)	30分	おしょうがつ
8	1月21日(土)	30分	かみさま
9	2月18日(土)	30分	おに
10	3月17日(土)	30分	たびだち

※大学授業や行事等により開催日を変更、またテーマも変更する場合があります。

「編集後記」

東日本大震災で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。さて、昨年から約8ヵ月に及ぶ制作期間を経て、このたび2012年度大学案内が完成しました(涙)。確かな掲載内容はもちろん冊子デザインの上品さと上品さにもこだわり、やわらかい表紙の手触り感や空気感のある写真テイスト、さらにカワイイ印象を感じてもらえるよう全体をピンクのトーンでまとめました。教員をはじめ協力いただいた在学生のみなさん、本当にありがとうございました。(広報室)

学校法人 大覚寺学園

大学院・芸術学部・短期大学部

京都嵯峨芸術大学広報　第37号　2011年6月1日発行　編集:京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行:学校法人 大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859　FAX.075-881-7133　info@kyoto-saga.ac.jp　www.kyoto-saga.ac.jp

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS JUNE. 2011

京都嵯峨芸術大学 広報

学校法人大覚寺学園
学園創立40周年

増田 洋 ｜ 芸術学部教授／学園創立40周年記念事業室室長

この度、東日本大震災において被災されました方々に、心よりお見舞いを申し上げます。本学は日常の教育・研究にいっそう邁進することによって復興に貢献する所存でございます。

昨年度は40周年記念事業の1つである耐震補強、環境整備工事を無事終了し、キャンパス及びその周辺は美しく生まれ変わりました。また、学園史の編纂(10月発刊予定)、記念展覧会(6月)の準備も順調に進んでおります。

学園創立40周年にあたる今年度は、「芸術・教育・大学」と銘うって、これまでの40年を総括し新たな出発をするために連続講座を企画致しました。すでに第1、2回目の連続講座は終了しましたが、7月には「アートを教える—表現がもたらす自由」、9月は「デザインを教える」、そして10月には大阪大学 鷲田清一総長をお迎えして、シンポジウム「大学における芸術教育」を開催し、大学が社会の中で果たす役割について考えてみたいと思っております。本学関係者ならびに一般の方々にも参加いただけたら幸いでございます。

学園創立40周年記念事業イベントスケジュール

展覧会「まなざしの哲学 — 京都嵯峨芸術大学の40年」
出品者：本学教員、元教員、本学卒業生
6月14日(火)～19日(日)　京都市美術館 別館

公開討論会「アートを教える — 表現がもたらす自由」
講師：宇野和幸(本学教授)、仲政明(本学准教授)、日野田崇(本学准教授)、大島成己(本学准教授)、上田香(本学専任講師)
司会：松本泰章(本学教授)
7月16日(土)　14:30～16:30　有響館G401教室

公開討論会「デザインを教える」
講師：辻勇佑(本学准教授)、坂田岳彦(本学准教授)、竹内オサム(本学准教授)
司会：森本武(本学教授)
9月17日(土)　14:30～16:30　有響館G401教室

シンポジウム「大学における芸術教育」
基調講演：鷲田清一(哲学、大阪大学総長)
パネリスト：森雅彦(西洋美術史、宮城学院女子大学教授)、金子一夫(美術教育史、茨城大学教授)、奥忍(音楽教育学)、三好郁朗(京都嵯峨芸術大学学長)
司会：芳野明(西洋美術史、本学教授)
10月15日(土)　13:00～15:30　有響館G401教室

※上記は2011年4月現在での予定です。変更となる場合もございますので予めご了承願います。

学園創立40周年記念事業のイベントレポートをお届けします！

4/23 sat 外尾悦郎客員教授講演「ガウディの教えるもの、外尾悦郎の伝えるもの」開催レポート

スペインのバルセロナに位置するサグラダ・ファミリア聖堂で主任彫刻家を務める本学客員教授、外尾悦郎氏の講演を4月23日(土)に開催いたしました。

2010年度から本学の客員教授としてこれまでにもたびたび素晴らしいお話を伺うことができました。今回は、サグラダ・ファミリア聖堂主任彫刻家として先生がガウディから何を学ばれたのか、そしてご自身が後進の学生たちに何を伝えたいのかということを中心に、豊かな経験に基づいたお話を展開していただきました。

開催当日は大雨に見舞われたにも関わらず約300名もの参加者が訪れ、講演後の質疑応答では多くの手があがり、参加者の興味の深さを感じることができました。

「これまでの建築家は重力という敵と常に戦ってきました。しかしガウディは重力に逆らうのではなく、重力に従う形で彫刻を設計していったのです。彼の独創的なデザインも全てその構造力学的合理性に基づいたデザインでした。力でねじふせるのではなく、敵を味方に変える知恵、これがガウディの考える未来の知恵だったのです。彼は〔美とは真実の光の瞬きである〕という言葉を残しています。私たちは常に真実とは何かを追求していかなければならない。言葉や物事に捉われて本質を見失ってはいけないのです」と外尾氏は述べられていました。

2011年度学園創立40周年記念の幕開けにふさわしい、すばらしい講演会となりました。

5/21 sat 鼎談「地域と生きるデザイン」開催レポート

講師：新村則人(グラフィックデザイナー)、真板昭夫(本学教授)、竹内オサム(本学准教授)

鼎談「地域と生きるデザイン」が5月21日(土)に嵯原キャンパス有響館にて開催されました。

新村則人氏は主に自然と生活をテーマに作品を制作されており、その独自の世界観を持ったデザインはどのように確立されていったのか、また制作の手法について作品のスライドを交えて丁寧に説明していただきました。

本学教員の真板昭夫教授には観光デザイン学科の学生が高島市の商工会女性部と共同で制作した「食の暦フェノロジーカレンダー」について細かな経緯を説明していただき、観光デザインとはその地域を自分の目で観て体感していく事が重要であり、そこで初めて良いデザインが生まれると語られていました。

講演後半からは、ともに「自然と生活」をベースに活動を続けている個性豊かなこの二人に本学教員である竹内オサム准教授がさまざまな角度から質問を投げかけ、これからの社会に対してのデザインとはどうあるべきか、本学でデザインを学んでいくという事はどういう事なのかなど、熱い議論が交わされました。本学が掲げる理念「考える芸大」を象徴した、実りある討論会となりました。

学園創立40周年記念展覧会「まなざしの哲学—京都嵯峨芸術大学の40年」のWG（ワーキンググループ）リーダーで本学芸術学部教授の芳野明先生に、今回の展覧会の見所などについてお話をうかがいました。

—今回の展覧会を開催するまでの経緯を教えていただけますか。

僕は本学へ来て5年目なので昔のことは詳しくないのですが、確か学園創立30周年の時に展覧会をやっているんですよ。それで、学園創立40周年記念事業室の中で「何をするか」という話になって。そうすると「40周年を記念して展覧会をしよう」っていう話がすぐ出てくるわけで。それで、ある意味必然的にというか、僕は元学芸員で本学附属博物館の仕事もしているので、展覧会担当になり話を進めてきました。

—発案から実際に展覧会が開催されるまで、どれ位の期間を要したのでしょうか。

最初に委員会で話が出てから、大体1年位だと思います。実質的に動いたのは、もっと短いですけれども。

—担当者としてご苦労された点はどのようなことですか。

「40年間を振り返る」ということなので、なるべく満遍なく、という風には考えたんですが、会場の大きさの都合や、人数も多いので、どうしても偏りが出たりとか、そういうところが難しいところですね。

あとは出品する人が100人以上になりますので、専任の先生はいいですけれど、退職された先生方とか卒業生とか、一人ひとりにコンタクトをとって資料を集めて…というところがとても大変なところですね。普通、美術館などで展覧会をする際の出品者は、多くても4～5人という感じですよね。今回のように出品者が100人以上もいると、それぞれの方にコンタクトをとってお願いをして…というところが一番大変なところです。

—展覧会の見所を教えてください。

今回の展覧会は、単純に「40年」というテーマなので、作品の方からまとまった何かを語りかけてくるという展覧会とはちょっと違うんです。映像作品もあればマンガもあるし、日本画や洋画もあったりするわけで。そうやって考えると、「見所は？」と聞かれたら、「よくもまあ、こんなにバラエティ豊かな卒業生たちが…」というところでしょうか。

—普段あまり美術作品を見ていない方も、お客様として来られると思うのですが、どういったところを楽しんでもらいたいですか。

色々なジャンルの作品、色々な中身の作品があるので、「こういうものが美術なんだ」と思うよりは、「こんなものも美術なのか」と首を傾げながらみてもらえると面白いかもしれません。「一体芸大って何をやっているんだろう」という感覚を楽しんでもらえるとうれしいですね。

(2011年6月発行予定)

◀京都嵯峨芸術大学専任教員作品研究ファイル(左)
元教員・卒業生作品ファイル(右)

展覧会「まなざしの哲学—京都嵯峨芸術大学の40年」

6月14日(火)～19日(日)　京都市美術館 別館(観覧無料)
出品者：本学教員、元教員、本学卒業生
主な出品作家：林司馬、林潤一、箱崎睦昌、大沼憲昭、川端彌之助、黒川彰夫、加藤明子、伊庭靖子、はまぐちさくらこ、吉原英雄、西真、木村秀樹、村上文生、大島成己、伊勢信子、平松園和、黒田鵬、辻信夫、吉永絹代、岩淵重哉、池田八栄子、日野田崇、桑田卓郎、池垣タダヒコ、篠原猛史、青木京太郎、木部訓子、金澤麻由子、山田博之、福島敦子、中田雅喜、イワイフミ

NEWS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

理事会報告

2010(平成22)年度 収支決算報告

大学は、学生から納付された授業料等の学納金と国庫補助金を大きな収入源としており、その他、種々の手数料や寄付金を加えて、学生の教育や課外活動、教員の研究活動、地域社会との連繫事業等にかかる経費を賄っています。また、日々の教育研究活動を支える校舎の安全性・利便性確保やコンピューターをはじめとする設備の更新、拡充のために投資したり、将来に向けての積立を行ったりします。既にご存知の通り、少子化による学生数減少という厳しい環境に加えて、100年に一度といわれる経済不況からようやく回復の兆しが見えてきた矢先に、東日本を襲う大震災に見舞われ、学生や大学を取り巻く経済環境はいまだ大変厳しい状況にあります。しかし、今年学園創立40周年を迎え、さらに今後も永続的に維持発展させていくため、できるかぎりの努力をしてまいります。その概要を大学の関係者の皆さんにご説明いたします。

資金収支計算書は、1年間の諸活動に対応するすべての収入と支出の内容と資金の顛末を表す計算書です。消費収支計算書は1年間の学校の消費収入と消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするもので、企業会計でいう損益計算書にあたります。大学は利益を追求する営利団体ではないので、利益を出す必要はありませんが、収支のバランスが取れた安定した経営が望まれます。貸借対照表は、年度末の資産と負債、正味財産の状況を示しています。

消費収支計算書の消費収入の部は、資金収支計算書の学生生徒等納付金収入から雑収入までとほぼ同じで、現物寄付金を寄付金収入に加えたものです。借入金等を含まず、学校法人の負債とならない収入という意味で帰属収入といいます。施設設備の充実に充てるための基本金を予め帰属収入から差し引いた残りを、大学が1年間の消費に当てられる収入として消費収入といいます。一方、消費収支計算書の消費支出の部は、資金収支計算書の人件費から借入金等利息までとほぼ同じで、教育研究経費と管理経費にそれぞれ過去に取得した建物や機器備品の減価償却額を経費として加えています。その他、古くなった資産を処分したことによる費用や徴収不能引当金への繰入額を計上しています。

さて昨年度は、国の補助金と自己資金で約10億円をかけて念願の研心館(実習A棟)・遊意館(実習B棟)、講堂C棟の耐震改修工事、教室・トイレ・廊下等の全面改修と配置換え、空調設備・C棟エレベーターの更新、建物周辺も含めた全面的バリアフリー化、正門・玄関ホール・芝生広場・中庭・駐輪場等の整備を行いました。通常の授業に極力支障が出ないよう、夏期休暇を中心とした集中的な工事でしたが、皆さんのご協力の結果、安全で快適な学習・創作空間を提供できたことは大変喜ばしいことでした。

その他には、芸術学部メディアデザイン学科が完成年度を迎え、全学年分の教育機器導入を完了しました。また、2008年度から進めてきた戦略的大学連携支援事業「eラーニングシステム」の最終年度として様々なeラーニングコンテンツの作成を行いました。なかでも注目を引くのは2011年度から大学コンソーシアム京都へ引継がれたeラーニングシステムのマスコットキャラクターはすべて本学の学生の作品であることをご紹介しておきます。情報処理演習室Ⅰ・ⅡのiMac、LL教室のWindowsPC、有響館情報フロアの閲覧用PCもすべて更新が完了しました。

これらの大規模な施設設備関係の投資を実施した昨年度の財政状況を簡単に説明します。資金収支計算書の収入の部では、学納金、前受金収入は学生数の減少の結果、減少傾向にあります。例年に比べ補助金収入が耐震改修・バリアフリー補助金の関係で大きく増額となっています。その補助金が23年度4月に交付され、未収入金として計上したため、資金収入調整勘定も例年より増えています。一方支出の部では施設関係支出として予算化していた工事関係費のうち、精査の結果、教育研究経費の修繕費として計上すべき額が約1億39百万円となったため、予算との差異が生じています。

帰属収支計算書では、帰属収入は学納金がやや減少しましたが、補助金の増額の結果19億93百万円となりました。基本金組入額は古い施設の取り壊し等によって予算よりも約1億円減の4億7千万円となり、これを差し引いた消費収入の合計は予算より1億2千万円増の15億2千万円となりました。人件費や他の諸経費の節約などに努めましたが、前述のとおり修繕費の増加による教育研究経費が増加し、消費支出は予算より5千万円増の19億1千万円となり、消費支出超過額は3億9千万円となりました。しかしながら、基本金組入れ前の帰属収入と消費収支の比較(帰属収支差額)では約8千万円の黒字となりました。

年度末の資産と負債等の状況は、貸借対照表の通り、94億7千万円の資産を有し、そのうち負債は15億2千万円で、正味財産は79億5千万円となっています。負債のうち、借入金は3億81百万円で、計画通り返済を進めています。

〈資金収支計算書〉 2010(平成22)年4月1日〜2011(平成23)年3月31日(単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,385,105	1,391,228	△ 6,123
手数料収入	18,350	17,610	740
寄付金収入	15,700	9,343	6,357
補助金収入	451,910	453,839	△ 1,929
資産運用収入	5,703	6,346	△ 643
事業収入	23,139	28,579	△ 5,440
雑収入	81,211	82,449	△ 1,238
前受金収入	527,505	398,661	128,844
その他の収入	247,137	252,132	△ 4,995
資金収入調整勘定	△ 883,599	△ 885,743	2,144
前年度繰越支払資金	2,021,666	2,021,666	
収入の部合計	3,893,827	3,776,110	117,717

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,087,647	1,081,195	6,452
教育研究経費支出	362,361	449,205	△ 86,844
管理経費支出	156,182	152,379	3,803
借入金等利息支出	6,478	6,477	1
借入金等返済支出	46,656	46,656	0
施設関係支出	978,915	881,183	97,732
設備関係支出	43,223	36,728	6,495
その他の支出	40,398	42,109	△ 1,711
〔予備費〕	10,000		10,000
資金支出調整勘定	△ 44,864	△ 46,572	1,708
次年度繰越支払資金	1,206,831	1,126,751	80,080
支出の部合計	3,893,827	3,776,110	117,717

〈消費収支計算書〉 2010(平成22)年4月1日〜2011(平成23)年3月31日(単位:千円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,385,105	1,391,228	△ 6,123
手数料	18,350	17,610	740
寄付金	16,700	13,221	3,479
補助金	451,910	453,839	△ 1,929
資産運用収入	5,703	6,346	△ 643
事業収入	23,139	28,579	△ 5,440
雑収入	81,211	82,449	△ 1,238
帰属収入合計	1,982,118	1,993,272	△ 11,154
基本金組入額合計	△ 585,082	△ 472,033	△ 113,049
消費収入の部合計	1,397,036	1,521,239	△ 124,203

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,088,276	1,068,847	19,429
教育研究経費	539,736	635,725	△ 95,989
管理経費	166,020	162,386	3,634
借入金等利息	6,478	6,477	1
資産処分差額	30,316	33,536	△ 3,220
徴収不能引当金繰入額	15,574	2,699	12,875
徴収不能額	5,223	5,223	0
〔予備費〕	10,000		10,000
消費支出の部合計	1,861,623	1,914,893	△ 53,270
当年度消費支出超過額	464,587	393,654	
前年度繰越消費支出超過額	2,771,370	2,771,370	
翌年度繰越消費支出超過額	3,235,957	3,165,024	
帰属収支差額	120,495	78,379	

〈貸借対照表〉 2011(平成23)年3月31日 (単位:千円)

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	7,990,986	固定負債	1,001,028
流動資産	1,482,232	流動負債	520,446
資産の部合計	9,473,218	負債の部合計	1,521,474
		基本金	11,116,768
		消費収支差額	△3,165,024
		負債・基本金・消費収支差額の部合計	9,473,218

(C)京都嵯峨芸術大学芸術学部メディアデザイン学科キャラクター制作混成チーム

2011(平成23)年度 予算編成基本方針・収支予算書

【平成23年度予算編成基本方針】(平成22年9月22日理事会決定)

1. 中期的計画の策定
2. 学園創立40周年記念事業の取り組み
   - ・学園史の編成および出版 ・環境整備事業寄付金の募集
   - ・各種記念イベントの実施
3. 学生募集活動、広報活動の強化
4. 卒業生の就職および進路支援の強化
5. 地域連携を目的とした文化事業の展開
6. 評価制度、現行給与制度・諸手当等の改正検討
7. 科学研究費等の外部資金獲得のための取り組み
8. 省エネ、経費削減を目指した対策の推進

【2011(平成23)年度 資金収支予算書】 (単位:千円)

収入の部		消費支出の部	
科目	予算	科目	予算
学生生徒等納付金収入	1,340,830	人件費支出	1,015,603
手数料収入	18,554	教育研究経費支出	284,747
寄付金収入	28,600	管理経費支出	170,027
補助金収入	165,090	借入金等利息支出	5,269
資産運用収入	812	借入金等返済支出	42,768
事業収入	28,083	施設関係支出	17,600
雑収入	30,241	設備関係支出	11,039
前受金収入	489,005	その他の支出	53,520
その他の収入	354,166	〔予備費〕	10,000
資金収入調整勘定	△ 570,446	資金支出調整勘定	△ 48,545
前年度繰越支払資金	1,206,830	次年度繰越支払資金	1,529,737
収入の部合計	3,091,765	支出の部合計	3,091,765

【2011(平成23)年度 消費収支予算書】 (単位:千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	予算	科目	予算
学生生徒等納付金	1,340,830	人件費	1,003,328
手数料	18,554	教育研究経費	492,861
寄付金	29,600	管理経費	179,861
補助金	165,090	借入金等利息	5,269
資産運用収入	812	資産処分差額	0
事業収入	28,083	徴収不能引当金繰入額	15,574
雑収入	30,241	徴収不能額	5,223
帰属収入合計	1,613,210		
基本金組入額合計	△ 67,342	〔予備費〕	10,000
消費収入の部合計	1,545,868	消費支出の部合計	1,712,116

寄附行為の一部変更

本学は2010年11月、文部科学省運営委員による実地調査を受け、本学園の運営面に不可欠な規程整備、法人組織の円滑な運用等、私立学校法の改正に伴う取り組みとして、積極的な対応に努めてきたところです。さらなる整備を進めるとともに、とくに必要と思われる運営組織の合理化を図るため、このたび理事及び評議員の定数を変更することとし、4月7日付文部科学省の認可を受けました。

このことにより理事は14人から11人に、評議員は29人から23人に変更となります。(総務課)

大学報告

2010年度進路概況

2011年3月卒業生の大卒求人倍率は、1.28倍となり、昨年度の1.62倍に比べ0.34ポイント低下しました。これは、企業の求人総数が前年比19.8%減の58万1900人へ大幅に落ち込むことが主因で、依然として厳しい経済環境を受け新規雇用を抑制する動きが強まったものと考えられます。1996年(1.08倍)や2000年(0.99倍)の就職難とされている時期に匹敵する低い数値となっています。

そのような状況下で本学学生の就職活動は、相変わらずクリエイティブ系の企業に人気が集中しており、年々早まる採用試験ではポートフォリオや課題制作を重視した作品審査が多くなり、作品の完成度を評価する傾向が見られます。内定を勝ち取った学生は、早くから熱心に動いており、「就職するんだ」という意欲が表れています。

今年度の就職状況は、卒業者に対する就職希望者の比率が60.5%、就職希望者に対する就職者数の比率(就職内定率)は61.6%でした。就職希望者の割合は例年とほぼ同じ数値でしたが、就職者数の比率は3.2ポイント減少しました。早くから就職活動をしていた人ほど内定率は高く、就職か進学かを迷っていたり、業種あるいは職種を決定できなかった人は最後まで苦しんでいたように思います。本学では卒業後もキャリアサポートを実施しており希望者に対して応援しております。(キャリア支援課)

大学(大学院含む)		人数(人)	比率
	2010年度 卒業者数	147	
進路内訳	就職決定者数	64	43%
	就職未定(活動を継続する意思のある者)	24	16%
	進学(大学院・研究機関等)	10	7%
	本学大学院	4	3%
	専門学校	4	3%
	各種受験準備(公務員・教員・資格等)	2	1%
	アルバイト	4	3%
	家事手伝	0	0%
	制作活動または弟子入り	8	5%
	就職しない(「就職見込みあり」を含む)	7	5%
	不明(最終「進路調査書」の提出なし)	20	14%

短期大学(専攻科含む)		人数(人)	比率
	2010年度 卒業者数	144	
進路内訳	就職決定者数	45	31%
	就職未定(活動を継続する意思のある者)	37	25%
	進学(四大編入学・専攻科・研究機関等)	3	2%
	本学四大編入・専攻科	18	13%
	専門学校	2	1%
	各種受験準備(公務員・教員・資格等)	0	0%
	アルバイト	17	12%
	家事手伝	1	1%
	制作活動または弟子入り	8	6%
	本学研究生(専攻科のみ対象)	1	1%
	就職しない(「就職見込みあり」を含む)	6	4%
	不明(最終「進路調査書」の提出なし)	6	4%

※進路内訳数(人)÷卒業生数=比率(%)

入学宣誓式報告

本学の2011(平成23)年度入学宣誓式を4月2日(土)に挙行いたしました。黒髪理事長、三好学長から式辞があり、藤原教育後援会会長から祝辞をいただきました。役職者の紹介の後、在学生で学友会会長の大野裕章君による歓迎の言葉、芸術学部デザイン学科の富永由布子さんによる新入生宣誓が行われました。なお、本年度の入学生数は以下の通りです。(総務課)

○京都嵯峨芸術大学大学院
芸術研究科 ……… 6名

○京都嵯峨芸術大学芸術学部
造形学科 ……… 56名
デザイン学科 ……… 77名
小計 ……… 133名

○京都嵯峨芸術大学短期大学部
専攻科 ……… 18名
美術学科 ……… 117名
小計 ……… 135名

計 274名

入試説明会シーズン到来

今年度も、他の芸術系大学と合同で行われる説明会や高校内・美術研究所内の説明会など全国各地で入試説明会に参加します。説明会では、入試スタッフを中心にカリキュラムの概要や学生生活、就職や奨学金の内容などに加え、40周年記念イベントの告知などの情報提供を行っていきます。(入試課)

学友会 募金活動報告

東日本大震災で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

3月11日(金)の東日本大震災の発生を受けて、本学の学生有志でボランティア活動を行うための学生団体が立ち上がりました。

【活動報告】

3月19日(土)に、本学とグランドプリンスホテル京都(京都市左京区)で行われた、卒業証書授与式と卒業懇親会において、31名の学生有志により募金活動を行いました。また、4月8日(金)に行われた新入生歓迎会にて、5名の学生有志によりチャリティーアートフリマを開催し、以下の成果を上げましたので報告いたします。

○募金活動参加者:31名
○集計金額:120,235円
○チャリティーアートフリマ参加者:5名
○売り上げ:3,200円
○その他収入:39,809円
○募金金額の総合計:163,244円

一刻も早い被災地の復興を願うとともに、ご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。集められた募金は、大学と共同して『日本赤十字社』に送られ、被災地の復興支援に役立てられます。(学友会)

告知 2011年度オープンキャンパス情報

2011年度のオープンキャンパスは、6月19日(日)、7月30日(土)31日(日)、10月9日(日)の計4回開催します。今回は、教職員と学生で組織したプロジェクトチームでオープンキャンパスを企画しています。また、4月29日(金・祝)に開催されたオープンクラス(授業公開)では、通常の授業の様子を公開し、多くの学生が集まり賑わいをみせました。7月29日(金)開催予定のオープンクラスでは、合評の様子を公開いたします。オープンキャンパスやオープンクラスを通して、本学の魅力をアピールしていきたいと考えています。(入試課)

TOPICS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

HOT TOPIC

2012年度大学案内発行

新しい大学案内が完成!

2012年度学生募集用の大学案内冊子が完成しました。「考える芸大」をテーマにおきつつ、在学生や卒業生の活動と表情、さらに教員の姿を積極的に紹介しています。特に学部学科の各分野・領域の紹介ページにおいては教員インタビューを敢行し、カリキュラム紹介や学びに対する熱意に加え、教員の人柄や温度が伝わるように「どんな先生が、どんなことを、どんな風に教えているのか」を分かりやすくまとめました。まさに本学の2012年度版“取扱説明書”(!?)ともいえるこの冊子には、本学を知るための基本情報が網羅されています。(広報室)

教員・在学生の活躍

財団法人京都伝統工芸産業支援センター理事長賞

「新ものづくり創造コンペティション」で本学学生が受賞!!

かねてより公募が行われていた「新ものづくり創造コンペティション」で、本学大学院、芸術研究科芸術専攻2回生の董衍(とうえん)さんの作品『京露水』が、「財団法人京都伝統工芸産業支援センター理事長賞」を受賞しました。

本コンペティションは京都伝統工芸協議会が主催し、「未来の京ものデザインコンペ」をテーマに、日本のものづくり文化の源流ともいえる京都の伝統工芸の特性を活かしながら、次代への提案を図るアイデアを広く募集したものです。3月10日(木)に審査会が開催され、応募総数129点のなかから、董衍さんの作品を含む受賞作品14点が決定されました。(広報室)

地域連携

京都人権啓発推進会議

絵本で人権意識を高めよう 本学生が「じんけん絵本」を制作

本学芸術学部森本武教授の研究室、および芸術学部観光デザイン学科3回生(2010年度当時)と京都府の京都人権啓発推進会議では、これまで共同企画として、人権の大切さを描いた子ども向け絵本の制作に取り組んできました。そして3月20日(日)、いよいよその取り組みが実を結び、京都府より『じんけん絵本』として出版されました。

観光デザイン学科3回生の安井春香さん、橋美紗帆さん、マンカン・オタムワンさん、小出朝之さんの4人がこの絵本プロジェクトに参加。絵本の中面は、「触れる」「コミュニケーション」「思いやり」「個性」という4つのキーワードをテーマとし、物語形式で構成されています。(広報室)

附属機関

博物館・ギャラリー企画報告

附属ギャラリーでは、2011年3月〜4月にかけて2つの展覧会が行われました。「2010年度生涯学習講座受講生作品展」では、生涯学習講座「ものづくり講座」の受講生が一年間の成果を発表、約60点の力作が揃いました。3月18日から4月24日の「学園創立40周年記念プレイベント 京都嵯峨芸術大学選抜作品展」では、美術、デザイン部門の2会期に分け、2010年度卒業制作の各賞受賞作を中心に展示しました。授業の合間、熱心に作品を見ている学生も多く見受けられ、加えて会期中に卒業、入学式を含んでいたこともあり、保護者の方々にも多数ご来館いただきました。

附属博物館では、4月2日〜30日まで「京都嵯峨芸術大学の先人達 第4回 〜工芸〜」を開催しました。本学発展にご尽力された先生方の作品を展示する「先人達」の4回目を迎えた今回は、本学工芸分野(染織、陶芸)の礎を築かれた先生方の作品17点を、本学所蔵作品を中心に展示しました。先生方個々の素材を生かした多角的表現と独自の色彩に、学生の創作意欲も刺激を受けたのではないでしょうか。(博物館・ギャラリー課)

大学行事予定 Jun.2011 — Sep.2011

日程	行事
■6月11日(土)	京の美意識「月の都、京都を探検する」(藤川桂介)
■6月14日(火)〜19日(日)	学園創立40周年記念事業 展覧会「まなざしの哲学—京都嵯峨芸術大学の40年」(於:京都市美術館 別館)
■6月18日(土)	絵本読み語り「あらし山びこ(テーマ:ぼうけん)」
■7月5日(火)	七夕祭プレイベント(予定)
■7月6日(水)	七夕祭(予定)
■7月9日(土)	京の美意識「京の塗師屋まだ四代目」(橋口俊之)
■7月16日(土)	学園創立40周年記念事業 公開討論会「アートを教える — 表現がもたらす自由」 絵本読み語り「あらし山びこ(テーマ:たべる)」
■7月28日(木)	前期授業終了
■8月23日(火)〜25日(木)	愛宕古道街道灯し
■9月1日(木)〜9日(金)	前期集中授業
■9月17日(土)	学園創立40周年記念事業 公開討論会「デザインを教える」
■9月24日(土)	京の美意識「祭りに輝く京の美意識」(山路興造)

大沢池景観修復プロジェクト

教育後援会 副会長 森内優

本学観光デザイン学科教授の真板昭夫先生が代表として進めて来られた『大沢池景観修復プロジェクト』が一昨年秋、成功裡に十年近い活動の幕を降ろした事は本学関係者なら多くの人がご存知だろうと思います。

先生は活動の様子を《大沢池景観修復プロジェクト》という著書(共著)で詳しく報告されると共に、2010年4月17日、本学の文化事業として定期的に開かれている《連続公開講座“京の美意識”(第51回)》で報告されました。

私はこの公開講座を聴講し大変感動を受けました。

真板先生のお仕事は、現代の我国が抱えている環境問題、とりわけ外来種がもたらす多くの問題・破壊された環境の復元に伴う諸問題を解決するために普遍的な示唆を与えていると直感しました。

講座終了後会場で、真板先生に感動したことをお伝えすると共により多くの人達にこの感動を伝えたいので発表の機会があれば積極的に発表されたらどうですかと提案しました。

そして、一つの方法として私も興味を持って接触していた関西自然保護機構(略称KONC)の機関紙《KONC会誌》(写真)に発表されることを提案しました。

先生も、私の一方的で、ある意味余計なおせっかいを快く了承されました。

関西自然保護機構は、京都大学名誉教授だった故四手井綱英先生などが中心になり自然環境保全に関する各分野での研究を結集する目的で1978年に創立された学際的な団体です。

私は勤務先の企業がISO4001の認証を取得したり、丹後半島の山の中で生まれましたが、“故里には自然がいっぱい”と言われることに若干の反発があり、真の自然環境とは何か、ということに興味がありKONCの先生方とお付き合いをさせて頂いていましたので、真板先生の了承を得てKONCの先生方に働きかけました。

このような経過の後、2010年6月にはKONCの運営委員の先生の了解を得、最終的には編集長の招待論文として掲載される事が決定しました。

その決定を真板先生に伝えると共に出稿の準備をお願いしました。

その結果、2010年12月、真板先生の《大沢池景観修復プロジェクト》の報告が掲載されたKONC会誌32巻2号(写真)が発行されました。

以上、昨年公開講座を聴講した後、会誌に報告が掲載されるまでの経過を時系列的に書いて来ましたが何で?と思われたかも知れません。

理由は二つあります。

一つ目は、私は真板先生のお仕事に大変感動しましたが、私の感動は自然環境の保全を学問的に研究して来られた先生方の共感を得る事が出来るかという疑問でした。

二つ目は、本学観光デザイン学科が目指している“人を観光に向かわせる為に景観の維持・修復が必要”という概念が環境維持を専門としている先生方に受け入れられるかどうかという疑問でした。

結果は『真板先生のお仕事は、KONC会誌に是非掲載して頂きたい事』と言う運営委員の先生の見解を頂く事で回答を得たと思いました。

二十一世紀に生きている私達は、千年後の大沢池を観ることは出来ません。

しかし、千二百年前に宗祖弘法大師空海が築庭した大沢池が、現代に生きる私達に感動を与えるように、今回景観が修復された大沢池は千年後、千二百年後も、観る人に多くの感動を与えるであろう事は容易に想像出来ることです。

そして、二十一世紀に行われた壮大な大沢池修復プロジェクトに想いを馳せるだろうことは確実だと思っています。

このプロジェクトを企画された大覚寺のご関係者、企画を受けて起ち、実践された真板先生を含む京都嵯峨芸術大学のご関係者、快くボランティアとして協力された多くの人達、総ての人達に心からの感謝を奉げて駄文を閉じます。(教育後援会 副会長 森内優)